

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム ひまわり畑

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392700019		
法人名	医療法人社団晃和会		
事業所名	グループホーム ひまわり畑		
所在地	岩手県一関市藤沢町徳田字馬場10番地2		
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 11 日	評価結果市町村受理日	平成27年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0392700019-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた場所にあり、四季折々の草花を身近に感じ、季節感あふれ、ゆったりと過ごして頂けるよう職員一同日々努力しております。また、地域の一員として近隣や地元の方々との交流も盛んであり、様々な行事に参加、田植えや稲刈り・畑仕事など、なじみのあるものへの関わりを大切に考え、心身共に豊かな生活が送れるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から4年目を迎えている当ホームは、利用者の平均年齢が88歳を超え、身体的かつ精神的な状況も、大きく変化しつつあり、それぞれの思いや意向の把握も次第に難しさを増してきている。しかし、職員は、その状況をしっかりと認識しながら、地域とともに、ゆったりと楽しく自由に、あたたかい毎日の暮らしができるように、「家族と地域の交流会」を開催するなど、力を合わせて地域に根差したホームづくりに取り組んでいる。利用者は、ホームが開設当初からこれまで、交流触れ合いを通して築き上げた信頼関係の中、地域の一員として、地域の田植えや稲刈りなど様々な行事に参加したりホームの畑仕事や洗濯ものたたみなど、馴染みや関心のあることに触れ合い、本人のペースでそれぞれ心豊かに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ひまわり畑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に共有できるチームケアづくりに全職員が少しずつ実践に向けて取り組んでいる状況です。	理念を玄関やリビングに掲示して、来訪者にも理解してもらい、また職員には気づきのきっかけとしているほか、ミーティング時にも、確認・共有し合っている。利用者の心身の状態も変化しており、今後は、さらに、それぞれの生活と理念を重ね合わせたケアに努めたいとしている。	開設から4年目を迎えていること、そして、利用者の心身の状態も大きく変化している中、理念について、一度皆さん立ち止まって振り返り、今後の個別支援へと理念を繋げてほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(地区健康教室や田植え、稲刈り等)への参加、地区の一斉清掃等への参加も利用者様と一緒に日常的に交流している。	散歩途中の気軽な挨拶や語り合い、時々野菜や草花のお裾分け・お茶のみが、近隣との普段の日課となっている。職員も利用者とともに地域の行事等に参加し、地域の皆さんとも顔なじみとなるなど、ホームが地域に認識され、定着してきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を通して地域の方々にも理解して頂けるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表や行政からの参加を頂き、外部から出た意見を会議で話し合い介護現場に活かしている。	委員のホームや利用者に対する理解が深まってきており、「待機者の状況」や「利用に係る費用」など、住民の関心の高い事柄など多岐に渡り意見が交わされている。今後は、会議の項目に研修を加えるなどして、更なる意見提言に繋げたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話での相談や直接行政窓口での相談等、常に話しやすい関係づくりをしている。介護相談員の方々の来設もあり、相談に応じて頂くなどの協力を得ている。	推進会議で情報交換や指導を受けるほか、地域支援会議の場でも、意見交換等を行っている。普段は、毎月の支所への書類提出の際に、必要な指導助言、意見交換も行っている。市担当課の訪問を受けることもあり、円満な関係が確保されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催したり、再度マニュアルの確認を実施、身体拘束ゼロに努めている。徘徊や離設行為が頻繁な利用者様に対しては、寄り添いケアを心がけ、見守り強化し、施錠しない施設作りに努めている。	「身体拘束はしない」宣言をしている。母体法人や外部での研修を通じて、意識や知識の向上を図るほか、毎月のミーティングにおいて、伝達研修、職員の気づき(ベッド柵の是非、言葉による拘束など)を、話し合い、共有しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に積極的に職員全体で取り組み、管理者・職員ともに、状況把握に努め業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料も用いて学ぶ機会を持ち、スムーズに支援できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改訂の際には、本人様及び御家族様に対し十分な説明を行い、納得・理解して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当者が意見等を受け入れる窓口となり、ミーティングを通じて周知を図り、ケアに反映できるよう努めている。	家族等からの意見については、意見箱を配置するとともに、いつでも、どこでもを基本にしながら、耳を傾けている。特に出されている意見は無いとしているが、今後は、ホームの広報などを活用するなど、意見につながるよう努めたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催し、職員が意見をしやすい雰囲気環境づくりに努め取り組んでいる。	いつでも、何でも、気軽に話し合える職員関係となっている。勤務割りや職員充足などが出され、ホーム内で行えることは皆で話し合い解決するほか、母体法人に関係することについては、しっかりと伝えて、わだかまりのないように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談にて各職員の就業状況・要望をこまめに聞き取り、把握・改善等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を設け、資格取得や技能向上への講習会等へは、積極的に受けられるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や施設交流会(法人内外施設等)などを通じ交流を図り、意見交換や相談を行い、サービス向上に向けたネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの不安や要望を傾聴し、安心して生活を送って頂けるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心感を持って頂けるよう、丁寧に傾聴し、話しやすい雰囲気・関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを把握し、何を今必要としているかを話し合い、利用者様と御家族様が求めているサービスにつなげるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、掃除やレクなどを行う際に、利用者様一人ひとりの能力を活かし、職員とともに出来ない利用者様を先導し、対等の立場にて取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との連絡を密にし、御家族様と共に過ごせる機会を設け、共に支え合いながら良い関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様や地域の方々との協力を得て、外出や外泊等の支援を行っている。ドライブに出かけ、地域を散策しながら、地名の会話や昔のことを回想したり等に心掛けている。	人数的には、多くはないものの、同級生など友人知人の訪問もあり、しばし、旧交を温めている方、嫁さんの実家にお泊りに行くことを楽しみにしている方などもある。今後とも、希望を把握し、家族等の協力を得ながら、継続支援をしたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や状態を考慮しながら、利用者様同士の繋がりを大切にし、随時席替えを行うなど、お互い話しやすい環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や面会にて状態をお聞きし、相談できる関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人様の希望・意向・意見等を聞き取り、ケアカンファレンスにて周知し把握するよう努めている。御家族様からの協力も得る場合がある。	利用者の心身状態が大きく変化中、寄り添いや声かけを深めながら、把握に努めている。思いや意向の把握は、ケアプランに密接に関連するものとの意識をもって、普段の気付きをしっかりと記録し、共有しあい、実践に努めたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケースデータ・判定会議資料を参照し、御家族様や御本人様からの情報提供を受けながら把握に努め、日常のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート・生活記録表にて現状の把握に努め、状態の変化に直ぐ対応できるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・御家族様の意向に沿ったケアに繋げるよう、ケアカンファレンスにて話し合い、随時見直しを行いながら、介護計画作成に努めている。	日々の記録や毎月のモニタリングは、居室担当者が中心となり行い、3か月ごとの評価、6か月ごとの見直しは、計画作成担当者が、職員の意見を聴きながら整理している。今後も思いや意向・プラン・理念の関係を意識して取組みたいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・介護記録・申し送りノートなどの活用を図り、こまめに記録を取り情報の共有に努め、ケアの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの身体機能やニーズの把握に努め、その方に合ったサービスに繋がられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事等、地域資源を活かし、積極的に四季折々の収穫や交流等が出来るよう計画を立て支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・御家族様の意向に沿った医療機関を受診して頂いている。受診時には、適切な情報提供を行い、医療機関とのスムーズで良好な関係づくりに努めている。	利用者家族の納得したかかりつけ医となっている。定期受診については、職員が同行するほか、容体急変時等の際には、随時、家族の同行も考慮している。特に、夜間等の医療対応については訪問看護事業所等と緊密な連携が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化に対する報告・記録を密に行い、事業所内看護師または、訪問看護師とすぐ相談できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き情報交換に努めている。日頃から情報提供や相談を密に行い、良好な関係づくりに努め連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	具体的な重度化や終末期の対応については、対応が必要になった場合に利用者様・御家族様と話し合いを進めるとともに、主治医と相談し、進めていきたいと思っております。	重度化や終末期に関する指針策定はなされていないが、今後は、より利用者家族等の安心につなげようと、重度化等で対応が必要となった際の最善かつ具体的な方向性を家族等に説明できるよう、主治医等と相談を重ねていきたいとしている。	重度化等に対する対応方針についての、引き続きの検討と、職員のスキルアップを含めて、重度化等に対応した研修(シミュレーション研修など)を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講をはじめ、勉強会等で定期的な訓練を通して、すぐ対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や災害マニュアルの熟知に努めている。地域の方々にも参加・理解して頂き協力体制を築いている。	夜間想定を含めて、春と秋に消防署の立ち合いを得て行っている。訓練に際しては、特に、近隣の協力(自動火災報知装置設置者)を得ているほか、スプリンクラーの整備、職員は、AED講習等受講するなどして、いざという場合に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声かけを行い、呼び方や声の大きさ、話し方などにも配慮している。思いやりを持った対応を心がけている。	居室のドアや浴室カーテン仕切等、また普段の暮らしの中での尊厳を重視した丁寧な対応を全職員で心掛け支援している。利用者と職員がお互いを認め合う姿勢が事業所全体に心地よい雰囲気として流れている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを傾聴し、信頼関係を築きながら、希望や思いを出しやすい雰囲気づくりを心がけ、ケアカンファレンスにて職員全員が把握し支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを把握し、行動に無理強いせず、一人ひとりのペースに合わせた生活を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用して頂いている。行事や外出時のおしゃれにも配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳、食器拭きなどを一緒に行い、会話を交えながら楽しむことができるよう心掛けている。	献立は利用者希望を聴きながら職員が作成し、本部の管理栄養士に指導を受け提供している。調理は主に職員で、利用者は配膳や下膳のみで意欲的な関わりが少ないが、菜園畑で収穫した野菜の下拵えには楽しく参加し盛り上がる。おやつ作りを活かし、食欲を高める工夫に努めたいとしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、おやつ等も上手く活用しながら栄養バランスや脱水予防に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に心掛けている。義歯使用の方は、夕食後にはずして洗浄液につけて洗浄して頂くよう声かけをしたり、実施したりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表から排泄パターンを把握し、声かけを行いながら、トイレで排泄できるよう支援している。	それぞれの排泄の声掛けが必要な方を含め、利用者皆さんトイレでの排泄がなされている。利用されてからも、排泄の自立が維持されており、それが、生活への自信に繋がっているとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、乳製品や食物繊維など、個々に効果的な飲食物を工夫して勧めている。散歩や体操、腹部マッサージなどを取り入れて予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日の設定はあるが、状態をみながら曜日以外でも声かけをしたり、いつでも入浴できる旨を伝え希望に応えている。	週に2回の入浴を基本にしているものの、毎日や、通院前の希望による入浴については、柔軟に対応している。入浴剤を色々変えたりしながら、楽しみに繋げている。入りたがらない方には、無理強いはせず、タイミングを見るなどして、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所以前の生活を御家族様より確認し、個々に合った対応に心掛けている。その他、日中の生活を活発にして頂くように努め、より快適な眠りができるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報をファイルにまとめ、常にみられるようにしておくとともに、その副作用・用量の理解に努めている。誤薬がないよう複数の職員で確認を行い、症状や状態の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的に外出の機会を設け、施設内の生活以外での気分転換に取り組んでいる。施設内でも身体状態を考慮しながら、活動や手伝いなどをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を取り入れ外出場所を決めている。御家族様にも極力外出の機会を増やして頂きたい旨を説明している。	普段は事業所周辺の散歩支援に努めたり、高齢化もあり遠方外出は控え目とし、近間での外出や外食を楽しんだりドライブで道の駅や室根山・気仙沼方面等希望を聞きながら支援している。事業所一斉清掃日には、全員で姉妹事業所交流を持つ等、家族理解を得ながら外出の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを施設側で管理させて頂いているが、希望や外出の際など自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に合わせて電話や手紙のやり取りが自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や空気清浄機の設置にて清潔な空間づくりに努めている。季節感のある壁飾りを施し、そのときそのときの季節を味わって頂けるよう努めている。	行き届いた清掃と空気清浄機の設置等、利用者が快適に過ごせるよう工夫がされており、居間兼食堂にはヒマワリの絵が掲げてあり、他に季節感あふれる利用者作品や行事写真が飾られ、テレビ設置の正面にソファが配置され、利用者は好きな場所で好きなようにゆったりと過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前やあずまや等を利用して頂き、利用者様同士談話されたりできるよう声がけをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が利用している家具や寝具をそのまま持ち込んで頂き、本人様が過ごしやすいよう努めている。	テレビや冷蔵庫、仏壇など大きいものから、カレンダーや時計、家族等の写真など、利用者それぞれ思い思いのものを持ち込んで、毎日の生活を送っている。居室の入口には表札代わりに、水仙などの花の絵(木のプレート)が綺麗に掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に目印をつけたり、手すり、バリアフリー化によって、安全で自立した環境づくりに努めている。		